

岐阜県教育委員会 様

岐阜県立池田高等学校
校長 西谷 徹

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立池田高等学校学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和2年11月5日(木) 10:00~12:00
- 3 開催場所 池田高等学校校長室
- 4 参加者 委員 小林 月子 サンビレッジ国際医療福祉専門学校長
西尾 真奈巳 神戸町地域代表
西川 昭 元池田高等学校育友会役員
西川 菊雄 池田町上田区長
安田 正博 元池田高等学校育友会役員、垂井町青少年県指導員
國枝 磨須美 池田町教育長
宇野 秀宣 神戸町教育長
仲井 智一 池田町立池田中学校長
伊藤 敦 神戸町立神戸中学校長
飯沼 誠二 育友会会長
学校側 西谷 徹 校長
楠井 徳之 教頭
小野 信幸 事務長
桐山 竹司 教務主任
福島 秀一 生徒指導主事
水上 尊雄 進路指導部長

5 会議の概要(委員のご意見)

今回の学校運営協議会は、今年度2回目の開催となったが、第1回は書類開催であったため、今年度初めて委員の皆様は学校の様子を見ていただく機会となった。

意見交換1:「授業参観の感想について」

- ・整った環境の中で授業が実践されていることを実感した。生徒が共通の題材を仲間と共に調べ、グループで

生き生きと発表しており、協働学習の楽しさを改めて感じた。

- ・熱心に授業を受けている生徒たちの姿が印象的であった。社会福祉基礎の授業での言語聴覚士による講話は、この先の高齢化社会に備える授業展開がなされており素晴らしいと感じた。
- ・生徒たちは非常に落ち着いて学習に取り組んでいた。それはICT機器の活用によるものではなく、ペアやグループでの学習及び学習プリントの活用、外部人材による講話等の様々な工夫改善によるものであると感じた。中学校もGIGAスクール構想により、来年度以降、生徒一人一人にタブレット端末が貸与されるので、高校でのICT活用の様子を是非参考にしたい。
- ・生徒の学びに向かう姿が素晴らしかった。学んだことのメモを取り、それを自分に置きかえる努力ができれば、更に成長へと繋がるのではないか。神戸町もICT教育に力を入れ、各校の設備が整ってきているが、高校との唯一の違いはホワイトボードである。簡易スクリーンと比べて、プロジェクターの映りが遙かによく、板書をするスペースも十分確保されている点がよいと感じた。
- ・生徒たちは落ち着いて授業を受けていた。教師が生徒一人一人に発言を促すような授業展開がなされており、授業に参加していない生徒は一人もいなかった。選択授業の社会福祉基礎を見学したが、これから先の社会に必要な授業内容であると感じた。
- ・授業参観者が多いにもかかわらず、生徒たちの発表はそれを苦とせず、自由で楽しそうであった。普段の授業も和やかな雰囲気が進められていると推察した。
- ・以前と比べて生徒の雰囲気が和やかであり、前向きに授業に取り組んでいると感じた。ホワイトボードは反射して見辛いイメージがあったが、つや消し加工のためプロジェクターの映りが大変良かった。
- ・生徒は教師の話をしっかりと聞いており、私語もなくて感心した。地域として、今年度は生徒の安全面を考え、高校の正門から北西の農道に安全防護柵を設置する予定である。
- ・10年前と比べて、女子生徒が多くなったと感じた。明るい雰囲気の中で学校づくりがなされており、ユネスコの取組を含め、この10年間でかなりの変化があったと感じた。池田町で60年に渡り企業運営をさせていただいております、是非本校生徒のインターンシップを受け入れたい。
- ・今年度より1年生は1クラス35人の少人数となり、2・3年生の1クラス40人と比較すると、ゆとりがあり、教師の目が届きやすく感じた。ホワイトボードはプロジェクターによる投影画像が見やすく、生徒たちも勉強しやすいのではないかと。また、照明は蛍光灯が使用されているが、天候による影響や電気代等を考慮して、LED照明も検討してはどうか。このコロナ禍の中でも、生徒たちはかなり落ち着いて授業を受けていると感じた。

意見交換2：「これからの池田高校について」

- ・ユネスコスクール活動を根底に教育を続けていくことを嬉しく思っている。本校生徒が地域で活躍することで、この地域を育ててくれているのだとありがたく思っている。
- ・神戸町にとって、本校は神戸町の高校でもあると考えており、是非連携を深めていきたい。今年度はコロナ禍により連携事業ができていないが、昨年度は書道部に神戸町文化祭で書道パフォーマンスを行っていただいたり、図書館でのインターンシップにも参加いただいたりした。学校から図書館までは距離も近いので、連携に向けて一層取り組んでいきたい。
- ・池田中学校にとって、一番進学者が多いのが本校である。更に多くの生徒や保護者が本校への進学を希望するために、3年間の学びの中で幅広い進路目標が達成されることを大事にしてほしい。ESDやユネスコ

クールといった多様な取組の中で、それぞれの進路実現が図られていることは、他の高校にはない本校の魅力であり、その成果は中学生にも理解しやすい。

- 本校の出口が具体的に分かることは、中学生にとって学校の魅力につながる。今日ご説明いただいたように学校運営を進めていただけると、地元中学校としても嬉しい。
- 学校長の話は、時代を先んじたもので感銘を受けた。生徒が授業を選択することで、そこに責任が生まれる。この先どう変わっていくか分からない世の中で、生徒は自ら選択して人生を歩んでいくことが必要であり、そういった生徒を育てていくことが生涯教育につながると思う。
- 本校には、将来地元で活躍したいという生徒が多く、職業選択の一つとして医療福祉系は、今後ますます大事な分野である。地域にある学校の責任者として、生徒たちに最先端の経験を提案し、支援していきたい。
- 生徒がユネスコスクールを理解しているかは疑問である。何をやりたいのか分からない生徒が多いのではないかと。決して意欲がないわけではなく、それをどこに向けたらいいのか分かっていないのではないかと思う。色々なことを経験していく中で、生徒がやりたいことでどのように社会貢献していくのか、道筋が見えるとよいと思う。
- ユネスコやSDG sを広めるためには十分な説明が必要である。子ども達の見解に合わせて説明することで、浅くてもよいので学びの幅を広げ、徐々に理解を深めることができるとよい。
- 西濃地区において、国際的な視野を持つ高校があまり多くないので、非常によい取組が始まったのではないかと。
- これからは国際感覚が必要となるため、能力開発大学校をはじめ、様々な機関との連携を深めていただけると、地元企業として頼もしく感じる。
- ユネスコスクール活動を、継続的に行っていただきたい。今後の本校のPRにもなり、生徒達の幅広い視野の醸成に繋がる。高校3年間で生徒がどれだけ自分の視野を広げ、進路選択ができるかが重要だと考える。昔と比べて時代の流れが速く、対応の難しさがあると思うが、継続して行うことが重要ではないか。
- 生徒アンケートの結果から、授業の理解度が乏しい点が見受けられるが、学校が大切にしたいことを生徒に理解してもらい、生徒が主体的に活動できる環境を作っていくことが、今後の本校の在り方へと繋がっていくように感じる。
- <質問>ユネスコスクール指定校間での交流会は行っているか？
<回答>ユネスコスクール指定校の交流活動はあるが、コロナ禍により現在中止となっている。
- <質問>We b会議システム等を使って、海外の学校と交流会を行ってはどうか。
<回答>ニュージーランド研修は中止となったが、現在、アメリカの高校生との交流を進めている。

6 会議のまとめ

貴重なご意見をいただき大変ありがたい。色々な学校や機関、地域の方々との連携を深めていきたいと考えている。現在はコロナ禍で活動に制限があるが、生徒はもちろんのこと、教師の心身の健康にも配慮しながら、さらに有意義な教育活動の体制や地域連携のあり方を検討していきたい。今後もご意見やアイデア等を学校にお伝えいただき、是非参考とさせていただきます。本日は、ありがとうございました。